

令和元年度海岸漂着物実態調査の結果（概要）

1 目的

県内海岸における漂着物の地域特性や季節変動を把握するために、実態調査を実施した。調査結果は、山口県海岸漂着物対策地域計画の改定における基礎データとするとともに、発生抑制対策や回収処理対策の検討などに活用する。

2 調査内容

	分布調査	組成調査
調査方法	「水辺の散乱ごみ使用評価手法（海岸版）」に準じ、漂着物の量を調査	環境省のモニタリング手法に準じ、漂着物の組成と量を調査
調査地点	20 地点	5 地点
調査回数	2 回（9 月、1 月）	2 回（9 月、1 月）

3 調査地点

【分布調査】

地域バランスを考慮して、20 地点を選定
 （瀬戸内海：20 地点、響灘：4 地点、日本海：6 地点）

【組成調査】

漂着物の質及び量、自然的条件や社会的条件等の異なる 5 地点を選定

- 瀬戸内海（3 地点）：周防大島町、光市、山口市
- 響 灘（1 地点）：下関市
- 日 本 海（1 地点）：長門市



黒字番号：分布調査 白字番号：分布調査及び組成調査

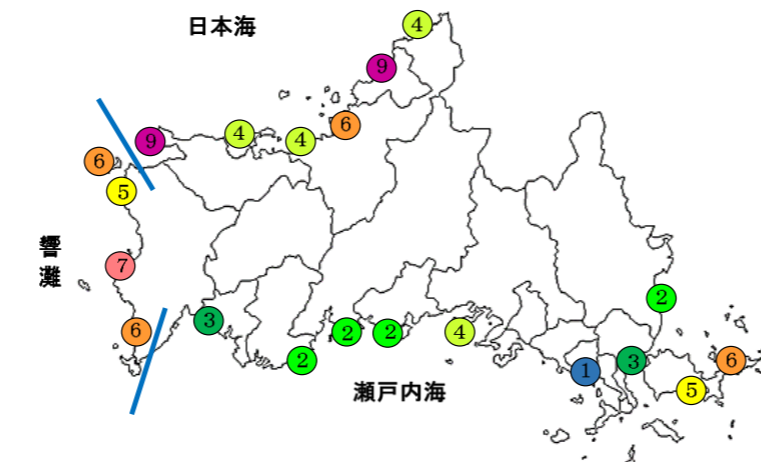
4 調査結果

(1) 分布調査

【夏季（9 月）】



【冬季（1 月）】



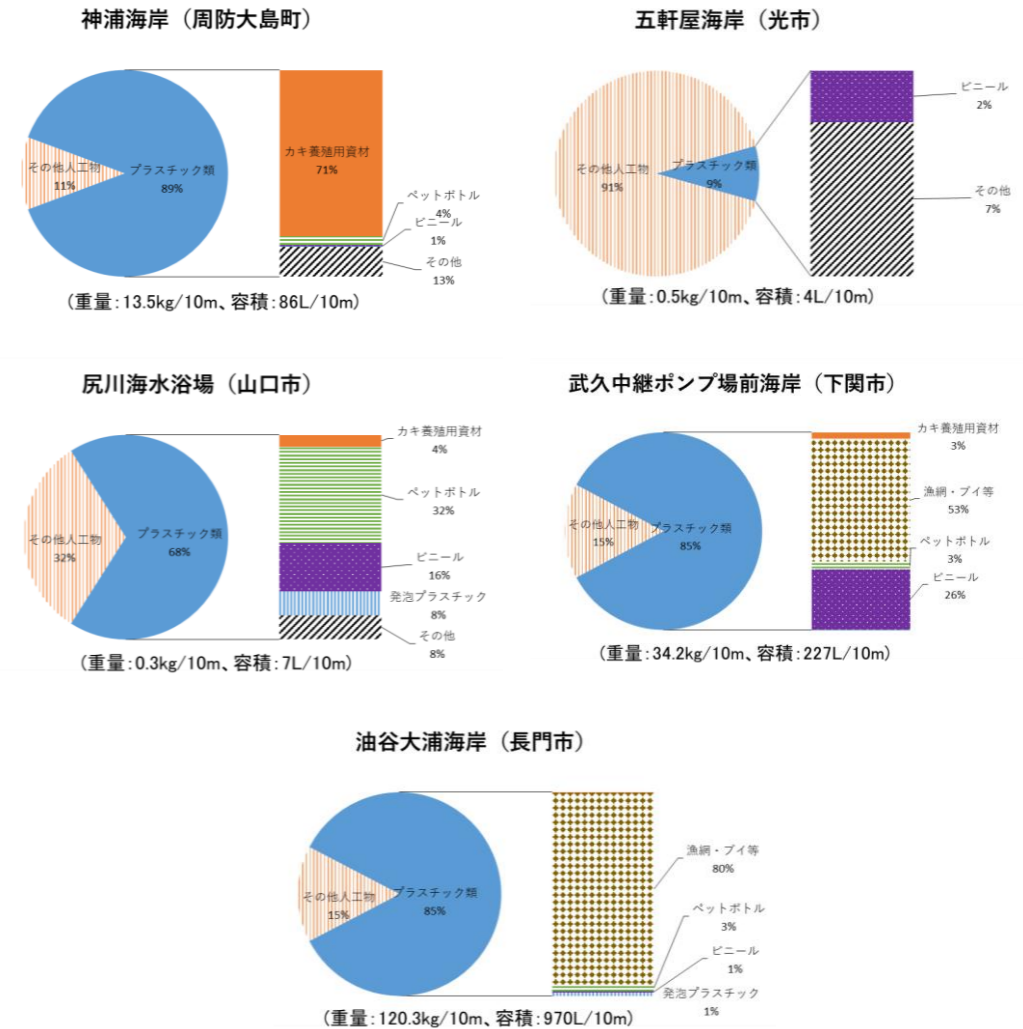
※数字（評価ランク）が大きい地点ほど漂着物の量が多い

(2) 組成調査

【漂着物の量】

市町	海岸	重量(kg/10m)		
		夏季	冬季	冬季/夏季
周防大島町	③神浦海岸	6.2	13.5	2.2
光市	⑤五軒屋海岸	0.6	0.5	0.8
山口市	⑧尻川海水浴場	0.8	0.3	0.4
下関市	⑩武久中継ポンプ場前海岸	12.5	34.2	2.7
長門市	⑮油谷大浦海岸	11.2	120.3	10.7

【漂着物の組成】※冬季組成調査（割合は重量ベース）



5 まとめ

- 組成調査を実施した 5 地点中 4 地点で、プラスチック類の割合が最も高く 7～9 割を占めた。
- 日本海・響灘は、瀬戸内海に比べて漂着物の量が多い傾向にあった。
- 日本海・響灘は、漁具（漁網、ブイ等）や外国語標記の漂着物が多く漂着し、響灘の市街地付近の海岸には生活系ごみも多く見られた。
- 瀬戸内海は、漁具（カキ養殖用資材）や生活系ごみが見られたが、周防大島町の広島湾内の海岸では他海岸に比べて漁具（カキ養殖用資材）の割合が高い傾向にあった。
- 日本海・響灘は、季節風の影響が強い冬季に漂着量が増加した。
- 瀬戸内海では、夏季と冬季の漂着量に大きな差は見られないが、周防大島町の広島湾内の海岸では冬季の漂着量が重量ベースで倍増した。